

# YAMAGATA GLOBAL FAMILY やまがた地球家族

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌

☆この機関誌の名前を募集中です。詳しくは最終頁をご覧ください。

設立記念創刊号 Vol.1



二〇〇四年十月二日、鶴岡市の出羽庄内国際村で「協力隊を支援するやまがた地球家族の会」が設立されました。青年海外協力隊など独立行政法人・国際協力機構（JICA）のボランティア活動事業への理解を深めるとともに、草の根レベルの国際協力や国際理解教育を推進するのが目的で、県内全域・各界を網羅した支援組織です。同様の支援組織は全国で三十六団体あり、約六千人が活動しています。東北では山形県だけに支援組織がなかったため、青年海外協力隊OBらが中心となり、去年秋から設立準備を進めてきました。

午前中の設立発起人会に続いて、午後は設立総会を開催。約百人が出席し、活動方針や役員を決めました。総会後は記念講演会・記念パーティーが行われ、大勢の会員・来賓・ボランティアスタッフ・在住外国人らが、設立の喜びを分かち合いました。

『協力隊を支援するやまがた地球家族の会』は、JICAボランティアへの理解を深め、草の根レベルの支援の輪を広げ、地域性を生かした独自の活動を展開することで、国を越えて地球家族の輪を広げていきます。設立の趣旨をご理解いただき、企業及び県民の皆様のご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



↑ 設立総会での酒井会長

『協力隊を支援するやまがた地球家族の会』は、JICAボランティアへの理解を深め、草の根レベルの支援の輪を広げ、地域性を生かした独自の活動を展開することで、国を越えて地球家族の輪を広げていきます。設立の趣旨をご理解いただき、企業及び県民の皆様のご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

『協力隊を支援するやまがた地球家族の会』は、JICAボランティアへの理解を深め、草の根レベルの支援の輪を広げ、地域性を生かした独自の活動を展開することで、国を越えて地球家族の輪を広げていきます。設立の趣旨をご理解いただき、企業及び県民の皆様のご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

『協力隊を支援するやまがた地球家族の会』は、JICAボランティアへの理解を深め、草の根レベルの支援の輪を広げ、地域性を生かした独自の活動を展開することで、国を越えて地球家族の輪を広げていきます。設立の趣旨をご理解いただき、企業及び県民の皆様のご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

『協力隊を支援するやまがた地球家族の会』は、JICAボランティアへの理解を深め、草の根レベルの支援の輪を広げ、地域性を生かした独自の活動を展開することで、国を越えて地球家族の輪を広げていきます。設立の趣旨をご理解いただき、企業及び県民の皆様のご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

『協力隊を支援するやまがた地球家族の会』は、JICAボランティアへの理解を深め、草の根レベルの支援の輪を広げ、地域性を生かした独自の活動を展開することで、国を越えて地球家族の輪を広げていきます。設立の趣旨をご理解いただき、企業及び県民の皆様のご支援とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

## 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』の活動方針及び事業予定

- 青年海外協力隊など JICA ボランティアへの理解と協力支援（帰国隊員による活動報告会や現地視察・体験旅行の開催）
- 地域性を生かした草の根レベルの国際協力の推進（現地の隊員支援を通して、小さな国際協力：学校施設整備、医療関係援助など）
- 地域社会における国際理解及び開発教育の推進（海外協力隊 OB を囲んで、地域学校・団体との交流会やワークショップ開催）

## 設立記念講演会・第一部

### 『山形から地球のあっちこっちへ』

#### 本県出身JICAボランティアOBの体験発表

高橋仁志さん（NPO法人山形県青年海外協力協会 会長）がJICAの国際協力事業概要と四つのJICAボランティア（青年海外協力隊・シニア海外ボランティア・日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティア）について説明した後、近年派遣されたばかりのJICAボランティアOB三名が体験発表。お客さまからも「テレビや新聞では伝わってこない、世界のナマの姿に触れることが出来た」との声が聞かれ、新鮮な驚きに満ちた時間でした。

#### ●川合仁氏

（山形市出身。青年海外協力隊平成十二年度三次隊・理数科教師隊員としてタンザニアへ派遣）

首都・ダラエスラムまでスムーズに移動できたとしても丸2日はかかる、という地方で活動した。電気や水道のない中で暮らしている現地の人たちと同様、汲んだ水を使いランプの下で生活した。

しかし、日本や先進国と比べて不便な生活の中でも、人々は将来への希望とそれを実現するための向上心を持ち、明るく生き生きと暮らしている。日本の物質的な豊かさとは別の「豊かさ」に気付くことが出来た。

#### ●白井誠一氏

（川西町出身。青年海外協力隊平成十二年度二次隊・システムエンジニア隊員としてブルガリアへ派遣）

水も電気もない途上国へ派遣されるという一般的な海外協力隊のイメージとは異なる、東ヨーロッパ・ブルガリアで、コンピュータ学校の指導にあたった。ドナウ川をはさんでルーマニアと向き合う街での暮らしは安定しており、学校の設備も生徒の生活も、先に発表した川合OBとはまったく異なる環境だった。

コンピュータ関連の技術移転だけでなく、日本という国のことを伝えるのも大事な活動と思い、授業以外の文化行事・活動にも積極的に参加した。

#### ●鈴木圭子氏

（河北町出身。日系社会青年ボランティア十七回生として、平成十三年から、ボリビアへ団体事務の職種で派遣）

ボリビアのサンファン日本人移住区で活動した。日系移民についてある程度は理解したつもりで行ったが、実際に現地でも世代をまたいで日系人の人々と暮らし、活



動を通じて接する中で、日系移民の歴史と現在に深く触れることができた。

二年間の活動を通じて多くの感動と貴重な出会いがあった。その体験を継続して伝えて行きたいと考え、帰国後はJICA国際協力推進員として県内で活動している。

（以上抄録）

←写真左から川合・白井・鈴木・高橋各氏。



## 役員・理事

### ○会長

酒井忠久 財団法人致道博物館 館長

### ○副会長

佐藤邦彦 東北公益文科大学 顧問

### ○理事

阿部由美子 大地の会 副代表  
開沼哲男 山形県中小企業団体中央会 専務理事  
小松伸也 株式会社小松建設 代表取締役社長  
金野信勇 学校法人羽黒学園 理事長  
齊藤栄司 NPO法人山形県青年海外協力協会 前会長  
佐々木裕 NHK山形放送局 局長  
佐藤憲司 ボランティア家族  
塩野寿伸 山形新聞社 常務取締役・編集局長

### ○理事

鈴木一志 JICA 帰国専門家山形県連絡会  
鈴木隆一 株式会社でん六 代表取締役社長  
高橋英彦 東北公益文科大学 教授  
高橋仁志 NPO法人山形県青年海外協力協会 会長  
高橋文夫 東北電化工業株式会社 代表取締役会長  
富樫透 山形県青年国際交流機構 会長  
橋本政之 荘内日報社 代表取締役常務  
山村達也 山形県農業協同組合中央会 常務理事

### ○監事

長岡 喬 社団法人山形県経営者協会 専務理事  
吉田庸一 NPO法人山形県青年海外協力協会 理事

※50音順・敬称略

### ○顧問

小野寺喜一郎 日本ハンガリー友好協会山形県支部 会長  
雲見昌弘 JICA 東北支部 支部長  
佐藤充彦 山形放送 代表取締役社長  
仙道富士郎 山形大学 学長・JICA 帰国専門家山形県連絡会 会長  
相馬健一 山形新聞社 代表取締役社長

富塚陽一 財団法人出羽庄内国際交流財団 理事長  
新田嘉一 株式会社平田牧場 代表取締役会長  
本間利雄 株式会社本間利雄設計事務所 代表取締役  
本山 彌 庄内交通株式会社 代表取締役社長

※50音順・敬称略

## 設立記念講演会・第二部

# 『国際協力と市民参加』

講師 協力隊を育てる会理事 青木盛久氏

『協力隊の語り部』を志し、六千人の隊員報告を読破した講師が、長年の外交官経験に裏打ちされた深い見識で、JICAボランティアの活躍ぶり・国際協力のあり方などを語って下さいました。

『協力隊を支援するやまがた地球家族の会』の設立を心からお祝い申し上げる。実は山形県と協力隊は非常に縁が深い。本県出身の寒河江善秋氏は、協力隊設立に深く関わられた。

明治維新以来の日本は大勢の「おしん」達の苦難と努力によって世界列強の一角を占めたものの、太平洋戦争の敗戦によって、奈落の底に突き落とされた。そこから再び這い上がって、今日の平和と繁栄を獲得した日本。二十世紀の我が国に課せられた使命は、こうした過去の経験を生かして、より平和でより公正な国際社会の構築に積極的に関わって行くことにある。

『やまがた地球家族の会』の設立趣意書にあるように、国民の一人一人が地球家族の一員として、国境を越え、世界の仲間と手を取り合いながら、自らの行動を通して世界の平和を築いていくことが求められる。



さらに本会は、草の根レベルでの国際協力と地域の国際化の輪を大きく広げていくために、青年海外協力隊をはじめとする地域出身のボランティア活動を支援していくことを目的に設立された。ボランティア活動の支援を通じて国際協力に参加するというのは、きわめて効果的・効率的なやり方である。まず、現地で素晴らしい活動をしている協力隊・日系社会ボランティア・JICAシニアボランティアを支援することによって、地域に残る市民の一人一人が、彼らと苦楽を共にすることができる。

し、彼らの後押しをすることも出来る。また、優秀な人材を協力隊などに送りこみ、あるいは帰国したボランティアを再び地域社会に迎え入れることによって、地域の活性化・国際化を促進することも期待出来る。

さて、わが国でボランティアが市民権を得たのは、一九九五年の阪神淡路大震災であった。そういうこともあって、ボランティアといえば「慈善」とか「奉仕」と結びつけて考えられがちであるし、悪くいえば「その場限り」という感じもつきまどっている。しかし、協力隊などのJICAボランティアは、同じボランティアでも長期滞在型・技術指導型であるところが一般のボランティアと大いに異なる。協力隊は「現地の人と共に暮らし、共に働く」ことを通じて、現地の人々との心のふれ合い、つまり相互の信頼と尊敬にもとづいた強固な人間関係の構築が期待されている。またシニアボランティアについては、具体的な技術指導を通じて、現地への技術移転が求められている。

(本県出身の青年海外協力隊員の活動が多数紹介された)

協力隊は非日常の世界であり、二年間の高揚である。日本国内にも外にも、このような高揚を継続的に保証する職場はない。皆様にお願ひしたいのは、協力隊に就職を世話することでは必ずしもない。むしろ帰国隊員が自らの経験を内面化し、客観視して、そ

れをこれからの人生に生かしていけるような支援をしていただくことである。もちろん、帰国隊員のために、理数科・体育・家庭科などの教員や臨床検査技師・X線技師などの公的機関への採用の窓口を拡げる等、就職自体についてもやれること・やるべきことは少なくない。しかし、それ以上に大切なのは、彼らの体験・彼らの志を地域の活性化のために生かせるような環境を用意してやることだと、私は考えている。(以上、抄録)

## 設立発起人

- |                                     |                              |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 阿部梅子 (うめちゃんキムチ本舗 代表)                | 阿部由美子 (大地の会 副代表)             |
| 大澤和久 (山形経済同友会 事務局長)                 | 開沼哲男 (山形県中小企業団体中央会 専務理事)     |
| 金野信勇 (学校法人羽黒学園 理事長)                 | 川村良子 (山形済生病院 看護部長)           |
| 雲見昌弘 (JICA 東北支部 支部長)                | 桑嶋誠一 (山形新聞社 鶴岡支社長)           |
| 小松伸也 (㈱小松建設 代表取締役社長)                | 齊藤栄司 (NPO 法人山形県青年海外協力協会 前会長) |
| 酒井天美 (㈱松岡物産 代表取締役社長)                | 酒井忠久 (財道博博物館 館長)             |
| 佐々木裕 (NHK 山形放送局 局長)                 | 佐藤邦彦 (東北公益文科大学 顧問)           |
| 佐藤憲司 (ボランティア家族)                     | 佐藤朋子 (余目町国際交流協会 会長)          |
| 佐藤廣志 (ND ソフトウェア㈱ 代表取締役社長)           | 佐藤陸男 (荘内日報社 代表取締役社長)         |
| 情野芳明 (アースネットワーク米沢 会長)               | 鈴木隆一 (㈱でん六 代表取締役社長)          |
| 仙道富士郎 (山形大学 学長・JICA 帰国専門家山形県連絡会 会長) |                              |
| 高橋照雄 (㈱両国屋 代表取締役)                   | 高橋英彦 (東北公益文科大学 教授)           |
| 高橋仁志 (NPO 法人山形県青年海外協力協会 会長)         | 高橋文夫 (東北電化工業㈱ 代表取締役会長)       |
| 田中 宏 (日本のうたをうたう会 主宰・音楽家)            | 富樫 透 (山形県青年国際交流機構 会長)        |
| 長岡 喬 (㈱社団法人山形県経営者協会 専務理事)           | 長澤 豊 (山形農業協同組合 代表理事専務)       |
| 新田嘉一 (㈱平田牧場 代表取締役会長)                | 本間利雄 (㈱本間利雄設計事務所 代表取締役)      |
| 本山 彌 (庄内交通㈱ 代表取締役社長)                | 山口考子 (庄内国際交流協会 副会長)          |
| 山口吉彦 (アマゾン民族館 館長)                   | 山村達也 (山形県農業協同組合中央会 常務理事)     |
| 吉田庸一 (NPO 法人山形県青年海外協力協会 理事)         |                              |

※ 50 音順・敬称略



↑ 設立記念パーティーの最後に、参加者全員で『故郷』を熱唱。写真右は青木盛久氏。

《専門家の眼・マラウイ報告》

元マラウイ共和国 農業普及  
及び組織化支援専門家  
(株) 両国屋 渡部直人

二〇〇一年八月から三年間南部  
アフリカのマラウイへ派遣され、  
日本の支援で作られた灌漑施設の  
リハビリ及び裨益農民への技術協  
力として、稲作を中心とした農業  
普及及び生産組織、水利組織設立  
に関する協力を行ってきた。

日本のODAの問題が凝縮された  
ようなプロジェクトで、今後のO  
DAの方向性やそのあり方を考え  
させられる三年間であった。

二〇〇一年から〇二年は食糧難、  
雨季には洪水、〇三年から〇四年  
の雨季は干ばつと、自然条件の厳  
しさゆえの協力の難しさも経験し  
た。

今後は裨益地域の皆さんの長年  
の経験や歴史さらには自然条件の  
検証を十分に行い、慎重かつ持続  
的な支援方法を構築する必要がある  
と痛感した。



↑ 800haの灌漑プロジェクト対象エリア内の灌漑施設  
維持管理指導中の筆者(写真左から2人目)、青年海外協  
力隊員(上野)及び政府農業普及職員。灌漑施設が大雨  
で流されたために、その緊急対策のため視察中に撮影。

☆佐藤行和さん壮行会のご報告・ホンジュラス共和国へ  
シニアボランティアとしてホンジュラス共和国に派遣される佐藤行和  
(ゆきかず)さんの壮行会が十月二十二日、出羽庄内国際村にて行われ  
ました。以前から「五十五歳で別の道へ踏み出す」と計画していた佐藤  
さんは、この春三十三年に渡る教員生活に別れを告げ、シニアボランテ  
ィアへ応募。中米でも最貧国の一つであるホンジュラスで、国立交響楽  
団の指導にあたることとなりました。オーケストラを愛する佐藤さんな  
らではの熱意あふれる国際協力を心から応援します。



→ 現場周辺の子供達。子供  
達は全員裸足で、学校教育を  
受けていない子も多い。また、  
マラリアやHIV等の疾患も  
多く、マラウイの平均寿命は  
三十八歳、健康寿命は二十九  
歳と言われている。何より農  
村部の貧困削減、解消が今後  
の最大の課題であり、マラウ  
イのあらゆる問題のベースに  
あるのがこうした農村部の経  
済基盤の脆弱性である。

☆設立記念パーティー報告

韓国からの留学生・金真姫さんの華やかな韓国宮廷舞踊で  
始まったパーティーは、終始和やかな雰囲気にも包まれていま  
した。乾杯の音頭は協協力隊を育てる会常任理事の高橋成雄  
氏にお願いし、待望の山形で支援組織設立の喜びを語って  
頂きました。

庄内在住の外国出身者と大勢のボランティアスタッフによ  
って、七ヶ国の民族料理が用意され、舌からも世界を味わえ  
る趣向になっていました。派遣当時の食生活を懐しく思い出  
した協力隊OBもいたようです。

米留学を控えた佐藤比奈子さんの素敵なピアノをバック  
に、世代や国籍を越えて会話も弾みます。その後、参加者全  
員で『故郷』を合唱し、感動のフィナーレを迎えました。

お帰りの際、「小さなハートプロジェクト」への寄付を頂  
戴した皆様に、当日会場で使用された数百本のバラから小  
さな花束に仕立てて、お土産にお持ち帰りいただきました。



↑ 2004.10.2「小さなハートプロジェクト」  
にご協力頂いた皆様、ありがとうございました。



↑ 設立総会会場の一角で、本県出身 JICA ボ  
ランティアの活躍を紹介するパネル展を開催。



↑ 前列中央が佐藤さん

★事務局では、当機関誌のタイトルを募集しています。「機関誌名」とその理由・住所・氏名・電話番号・創刊号  
の感想をご記入の上、ハガキかメールでご応募ください。採用された方には、豪華(?)記念品を進呈します!

☆お問い合わせ/ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 設立記念創刊号 平成16年11月1日発行(第1号) 発行人/酒井忠久

発行/〒997-0836 山形県鶴岡市家中新町10-18 致道博物館気付『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局 Tel&Fax) 0234-42-1458 (富樫)  
E-mail) info@chikyukazoku.org Website) http://www.chikyukazoku.org/

■協力隊を支援する『やまがた地球家族の会』入会のご案内

\*会費(1口):個人会員=3000円/家族会員=1000円(個人会員の家族)/学生会員=1000円/団体会員=10000円(企業及び団体)  
\*会員特典: JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える! 「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、  
年間購読料5,000円のところ、希望する会員には2,000円の送付手数料のみで1年間12冊ご提供いたします。